

渋沢（尾高）平九郎略年譜

西暦	和暦	年齢	事項
1847	弘化4	0	○11月7日、武蔵国榛沢郡下手計村（現深谷市）に生まれる。 【栄一】姉の千代と従兄の栄一が結婚。栄一と義兄弟となる。
1858	安政5	11	○長兄の惇忠や従兄の成一郎（喜作）、栄一の尊王攘夷思想に感化。 ○参加予定の「高崎城乗っ取り・横浜外国人居留地焼き討ち計画」が次兄・長七郎の説得により中止になる。
1863	文久3	16	【成一郎・栄一】平岡円四郎の推挙で一橋慶喜の家臣となる。
1864	元治元	17	【惇忠】6月5日、水戸天狗党との関係を疑われ捕縛。
1866	慶応2	18	○5日夜、家宅捜索に対応後、一晚拘留、手錠、宿預けとなる。 【成一郎・栄一】徳川慶喜が將軍職に就き、幕臣となる。
1867	慶応3	19	【栄一】正月9日「平九郎を見立養子とする旨」の書簡を千代に宛てる。11日、將軍名代の徳川昭武（慶喜の弟）に随行し渡仏。 ○8月、大刀（月山貞一作）と小刀2本（勝村徳勝作）を入手。 ○10月、栄一の正式な養子となり出府し、日本橋本銀町に居住。 慶喜、「大政奉還」の上表を提出。「王政復古」の大号令渙発。
1868	慶応4 明治元	20	○惇忠や千代らに江戸の状況を伝える。 「鳥羽伏見の戦い」、慶喜追討令が出される。 ○正月10日「徳川昭武の早期帰朝を求める」書簡を栄一に宛てる。 ○2月23日、成一郎を頭取に彰義隊が結成、第二青隊伍長に任命。 ○3月8日「徳川氏復興をはかる旨」の書簡を栄一に宛てる。 4月11日、「江戸開城」 ○彰義隊、江戸を出立し水戸に退隠する慶喜を見送る。 【成一郎】4月中旬、副頭取・天野八郎と対立し彰義隊を離脱。 ○4月28日、平九郎邸、天野八郎派隊士に取り囲まれる。 ○閏4月28日、自邸の障子に「 <small>人の楽しみを楽しむ者は人の憂いを憂い</small> 、 <small>人の食を喰らう者は</small> 死人之事 昌忠」と大書し、彰義隊を離脱。 ○閏4月、5月1日、振武軍を結成。田無村（現西東京市）に布陣。隊長に成一郎、中軍の将に惇忠、右軍頭取に平九郎が就任。 【振武軍】5月12日、田無村を発し箱根ヶ崎村（現瑞穂町）に本営を設置。

1868	慶応4 明治元
1873	明治6
1874	明治7
1890	明治23
1899	明治32
1911	明治44
1912	明治45 大正元
1918	大正7
1937	昭和12
1954	昭和29
1962	昭和37
1964	昭和39

○5月中旬、斥候として田無村、新宿、四谷など各所を偵察。

○15日正午、上野戦争勃発を報告。

【振武軍】上野へ応援に行くが間に合わず、彰義隊の残党を吸収。

【振武軍】18日、飯能に到着。

○19日、飯能に入り、本陣の能仁寺のうにんじに在陣。

【振武軍】22日深夜、笹井村（現狭山市）で佐土原藩さどわら（宮崎）・備前藩びぜん（岡山）・大村藩（長崎）と銃撃戦ののち敗走。

○23日明け方、成一郎とともに能仁寺から出陣。飯能の東方で新政府軍と交戦し敗れる。

○惇忠に「深入リシテ敗レタリ」と言い残し、姿を消す。

○顔振峠かあぶりとうげの茶屋で大刀を預け、黒山村（現越生町黒山）方面へ下る。

○午後4時ごろ、広島藩神機隊しんきたい監察・藤田高之一隊と奮戦後自刃。

平九郎の首は今市宿（現越生町市街地）に晒されたのち、法恩寺ほうおんじに埋葬された。骸は黒山の村人によって全洞院ぜんとういんに埋葬された。

【惇忠】7月20日、黒山村を訪ねて人々に話を聞いて回る。

【栄一】平九郎の遺骸を、東京谷中の渋沢家墓地に改葬。のちに全洞院に墓石が建立される。

【惇忠】7月、平九郎最期の様子を描いた絵に「澁澤平九郎昌忠戦鬪之図」と題し、画讃を添える。

【惇忠・栄一】6月24～25日、能仁寺を参詣後、島野伊右衛門宅（現金子家住宅）に投宿。翌日、平九郎自決の地を訪れ、全洞院で法要。6月、帝国劇場で、平九郎を主人公にした「振武軍」が上演。

【栄一】4月14日、越生尋常高等小学校（現越生町中央公民館）での講演会后、平九郎自決の地と墓を詣で、樋口吉平宅に一泊。尾高家墓地（下手計）に、「澁澤平九郎昌忠君招魂碑」建立。

【栄一】谷中の渋沢家墓地に、「澁澤平九郎追懷碑」建立。能仁寺に、「唱義死節義を唱え節に死す」碑建立。

平九郎自決の地に、渋沢敬三揮毫「澁澤平九郎自決之地」碑建立。「渋沢平九郎自決の地」を町指定旧跡に指定。

法恩寺に、渋沢元治揮毫「澁澤平九郎埋首之碑」建立。